植物と人々の博物館メールマガジン

第 123 号　2025 年 6 月 7 日発行

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

　クチナシやアジサイが咲き、梅雨に早くもなったようです。植物と人々の博物館は社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開しています。ご利用くださり、整理もご一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。

1.植物と人々の博物館

〇開館・作業日：5 月 12 日、28 日に開館しました。図書の整理と、展示の再開作業をしました。6 月は 16 日、30 日に開館予定です。さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行っています。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方は**ご連絡ください**。

主な作業：

①書籍 8000 冊・農林業、雑穀、民族植物学、環境、人類学、教育などの資料・書籍の整理、インドの関連書籍も多い。

②日本、インド、タイなどの民具の整理

③展示の企画：タイの民具の展示、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念記録

④インド亜大陸、中央アジア学術調査隊収集の植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、

⑤その他

〇報告

1）50 周年記念企画の 1 つとして ZOOM 座談会をします。案内は次です。再録
https://www.milletimplic.net/university/inch50aniv/inch50anipost.pdf

2）収蔵書籍の配架替えをしています。

3）5 月 12 日、中込代表理事、座談会資料スライド整理。

4）次代の食と農を考える会、北杜市の雑穀栽培者視察　5 月 17 日黒澤対応。

5）東北大学センターの小倉さん、道の駅のカレー屋の野島さんに、5 月 28 日に博物館を見ていただき、西原に向かい、中川宅の納屋でやまはた農園の冨澤さん、中川仁さんに解説をしていただきました。木俣、黒澤対応。

〇予定

1) タイ TJ クラブ展示準備

2) 書籍、標本の整理。

3) **電子書籍：**

自選集日英文要約版（第Ⅴ巻“Essentials of Ethnobotany on Millets ～Their Origin and Dispersal around Indian Subcontinent”）では、穀物に関する新たな栽培起原と伝播仮設および未来への提案をします。海外出版社から人類学シリーズに加えるように何度も提案がありましたが、もう面倒なので、お断りしました。日本語新書版は公開しました。同時に、自選集 III『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を進めています。自選集 VI『随筆集―生き物の文明への黙示録』や句集に順次新作を追加しています。

民族植物学ノオト第 18 号を公開しました。第 19 号は 2025 年末を原稿締め切りとします。どなたでも、ぜひご寄稿ください。

http://www.ppmusee.org/_userdata/oto_No18.pdf

4) **公式 HP：植物と人々の博物館** http://www.ppmusee.org/に含めて民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 https://www.milletimplic.net/も国会図書館インターネット資料収集保存事業（ndl.go.jp)で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています（すでに 5 回登録済)。すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまでが集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。無料で皆さんに読んでいただけます。

5) **森とむらの図書室**への寄贈など 現在所蔵する書籍や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるフィールド・ノオト、スライド 35mm なども、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。インド関係、民族植物学、図鑑、世界の料理書、雑穀などの文献、森林政策（財・森とむらの会の全資料）などに特色があります。

https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html

6) **雑穀栽培**

簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法　　雑穀 ～とりあえずの栽培法（milletimplic.net）

farmsklec8p.pdf（milletimplic.net）

加工法　　雑穀類の加工方法（milletimplic.net）

詳細な調査記録は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学～インド亜大陸の農山村から』を検索してお読みください。ダイジェスト版は『穀物の起原と伝播』です。

7）植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている１円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。将来に向けて、植物と人々の博物館のへのご寄付あるいは整 理作業のご協力を、よろしくお願いします。自然文化誌研究会に基金費目を設けまし た。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。他に数名の方に、まとめて関係資料を貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2.自然文化誌研究会　（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

〇報告

1）創立 50 周年記念行事の企画会議を行っています。

6 月 18 日、ZOOM で、座談会の準備打ち合わせ。

多くの方々のご参加を期待しています。

予定の詳細は下記ホーム・ページでご覧ください。

2）50 周年記念の前企画の ZOOM 座談会案内　再掲

内容：

（1）10：30～12：30

学術探検と学習・教育をつなぐ

挨拶・司会；中込卓男（代表理事）

話題提供；

①木俣美樹男（専任研究員、博物館担当運営委員、東京学芸大学名誉教授）

学術探検の系譜～植物の栽培化過程と伝播＜フィールド・ワークの成果から＞

環境学習における心の構造と機能の文化的進化＜冒険学校の成果から＞

話題提供スライドは下記です。事前にセリフ付きで公開します。詳細な説明はしませんので、ご参考になさり、興味がおありになれば、当日ないし、メールでご質問下さい。

https://www.milletimplic.net/university/inch50aniv/inchmindfin.pdf

②日比野真士（毎日新聞社）

東京学芸大学探検部員の海外探検と探検セミナー

＊昼食休憩、自由談話　12：30～13：00

（2）13：00～14：30

エコミュージアム日本村、雑穀街道普及会などの民族植物学的伝統知の継承・保全活動

司会；井村礼恵（博物館担当運営委員、文教大学准教授）

話題提供；

①宮本透（博物館担当運営委員、宮本茶園）

雑穀栽培講習会と雑穀街道の普及

②黒澤友彦（事務局長、木下養魚場）

エコミュージアム日本村の実践活動

③井村礼恵（博物館担当運営委員、文教大学准教授）

東京学芸大学との社会連携協定による地域振興活動

（3）14：30～16：00

冒険学校、環境学習セミナーなどの実践活動による心の形成

司会；西村俊（博物館担当理事、北陸先端科学技術大学院大学准教授）

話題提供；

①中込卓男（代表理事）

西原の民俗調査から冒険学校へ

②中込貴芳（副代表理事）

タイ・日本自然クラブの合同キャンプ

③宮坂朋彦（冒険学校担当運営委員、東京学芸大学連合大学院生）

冒険学校と現代教育の思潮～教育哲学の視点から

（4）16：00～16：10　挨拶・謝辞

小川泰彦（理事）

2）自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は来 2025 年に創立 50 周年を迎えます。今までの活動履歴を示す資料集をまとめています。とりあえず、下記で資料の一部を公開しています。ちなみに大学探検部は全国に 20 ほどは有ります。日本での大学探検部発祥地、京都大学探検部、関東大学探検部連盟の協賛を得ました。

https://www.milletimplic.net/archives/historyinch2025.html

ポスターは下記です。

https://www.milletimplic.net/university/inch50aaniv/inch50anipost.pdf

『50 年史』をまとめるほか、50 年間に関わった人々と思い出を語り合う会（10 月 4 日～5 日）とか、タイとの交流展示など、企画が進んでいます。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、何万人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1 泊 2 日を過ごします。学大環境教育研究センターの了承も得られています。

詳細はまだ未定ですが、おおよその仮案です。

日時：2025 年 10 月 4 日（土）～5 日（日）、1 泊 2 日、日帰り自由参加

話題:未定

場所：東京学芸大学彩色園など。仮承認を得ています。
内容：写真展、談話会、50 年記念誌の発行などを検討中。

3.環境学習市民連合大学　Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NPO4 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

https://www.milletimplic.net/university/civicuues.html

生業としての学びを勧めたいです。加えて、各団体による環境＋観光＋教育産業が実現できることを期待します。

民族植物学講義資料をカリキュラムにして体系的に公開します。植物の種子、保存方法、栽培、加工、調理、民俗、生物多様性、文化多様性の保全、生業を学ぶ環境学習原論、人新世に暮らす中での希望を探す、などを参考教材（無料）として用意します。実技は各団体の講座を受けてください。

小金井環境市民会議

4 月 5 日、市長への要望書「優先整備道路の検証についての検証方法・検証結果についての市民への説明要望」を直接、市長にお渡ししました。現市長は都道建設中止を公約に当選しましたが、建設方向の文書を都に提出するようです。環境市民会議は小金井市環境条例に基づき、市長に意見を述べることができることになっています。

武蔵野公園は多くの公園、大学、古い多磨墓地など周辺と一体なって、連携した大きな緑地になっています。太古から富士山を眺望できる聖なる場所です。これを中断するような都道は作るべきではありません。

毎日、散歩に行っている場所ですので、次のサイトを作り、日々の彩をお伝えします。小金井環境市民会議のサイトにリンクしてもらいます。

https://www.milletimplic.net/weedlife/musashinoopark.html

道路建設のためには、事前に送電線を移設せねばなりません。 6 月 7 日に、この工事が生物多様性や住民の暮らしを壊すことについて、野川ホタル村の方々に解説いただきました。野川の自然や地域社会を壊す都道の建設には賛同できません。30 名ほどで、現場検証をしました。実現性が低い建設計画の様で、中止するのが良いです。

○協力団体の案内

1）里山再生ボランティア入門講座

https://satoyama-gakkou.org/field/参加者募集里山再生ボランティア入門講座
〜〜

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：

館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二
研究員：木俣美樹男（東京、専任研究員、担当運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、井村礼恵（東京、担当運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）、Sofia M. Penabaz-Wiley（千葉）、伊能まゆ（ベトナム）、大澤由実（神奈川）ほか
公式 HP：自然文化誌研究会/植物と人々の博物館　http://www.npo-inch.ppmusee.org/
事務担当幹事　メールマガジン発行：木俣美樹男　kibi20kijin@yahoo.co.jp
民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録　https://www.milletimplic.net/
エコミュージアム日本村／ミューゼス研究会（山梨県小菅村）：代表　亀井雄次（山梨小菅村）
自然文化誌研究会：代表　中込卓男（東京）、副代表　中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）
事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村）
伝統知顧問：守屋秋子（小菅村）、岡部良雄（丹波山村）
〜〜

編集の独り言

下宿先の本郷館の西に、夕日を遮るように植えられたアオギリの大きな木がかつてありました。もう、50 年以上前のことです。人生はあまりの早さです。

光陰矢の如し、少年老い易く学成り難し、
一寸の光陰軽んずべからず、未だ覚めず池塘
春草の夢、階前の梧葉、已に秋声。

やっと波長の合うお医者に会えたようです。僕の意見をよく聞き、そんな薬さっさと捨てなさいと言われて、信頼できいると思いました。長年見ていただいている Y 先生も、この I 先生も、データ全体を見て、根拠を明示して、診断するのです。他の医者は関連するデータしか見ないで、説明もせず、僕の判断も聞かないで、ただ薬を飲めと言いました。長年、旅を重ねていたので、多くの持参していた薬は自己判断で、施用していました。医者でなくても、科学者ですから、データを読んだり、文献検索はできます。患者を馬鹿にするものではないです。辛い医原病になってしまいました。

写真：
クチナシ、アジサイ；道畑

三鷹出土の石器

西原の水車と雑穀畑

武蔵野公園の田圃、ビオトープ、野川公園のホタル

都道の建設計画地